

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102948
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきの里
所在地	松山市古川北1丁目25-24
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護と医療の連携ができており、入居者の健康状態を毎日詳細に報告できることで早期対応や予防が可能。元気で安心した生活が続けられるように支援しています。恒例行事においては、地域の方にも参加して頂けるようにチラシを配布したり、地域の子供達による獅子舞に来てもらうなど、家族と共に楽しめる機会を作っています。
また、年2回地域フォーラムを開催して、介護予防を目的とした体力測定を行ったり、熱中症の予防対策、災害時に必要な防災グッズや非常食についての情報を届けるなど地域の拠点となる努力をしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには市場を思わせるようなスーパー、コンビニや飲食店、小学校などがあり、生活をする上では最適な立地である。事業所の敷地内にある事務所を地域のボランティア団体(ナルク松山)に無償で貸し出し、運営推進会議への参加や琴などのボランティアを紹介してもらい訪問があるなど、相互の協力関係を築いている。年2回、法人として地域住民等を対象に熱中症や転倒予防などをテーマとした「地域フォーラム」を開催しており、参加者と交流を深めている。事業所では、利用者が「立つ・座る・歩く」ことを重要と考え、利用者は週1～2回母体診療所にパワーリハビリに出かけ、利用者の身体機能の維持や向上に努めている。職員は法人全体の会議や勉強会に自主的に参加しサービスの向上に努めている。また、母体の医療法人は、「介護と医療の連携」をモットーとしており、事業所では利用者の健康状態などを毎日母体診療所の医師や看護師に報告し健康管理をしており、利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。管理者や職員は、利用者の住み慣れた地域で一人ひとりの個性を生かし、安心してお互い笑って日々が暮らせるように支援している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 1 F

記入者(管理者)

氏 名 岡 美子

評価完了日 平成 26 年 8 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 医療と介護の連携を基本としているため、常にミーティングなどで意識し合い、介護だけでなく医療の知識も身につけ、日々のケアにつなげる努力をしている。	
			(外部評価) 法人の運営理念のほか、「一人一人の個性を生かしお互いに笑って日々が暮らせるような安全で快適なグループホーム作りを目指します。」という事業所独自の理念を作成している。理念を基にして、「医療と介護の連携」をモットーとし、利用者が住み慣れた場所で暮らし続けられるよう、管理者や職員は支援している。また、職員の「つばきの里10か条」を作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流は少ないが、事業所独自のイベントには近隣の方々・事業所の参加が増えてきている。また、主体法人で年2回地域フォーラムを開催し、その際には町内会・近隣地域や家族との交流を深める努力をしている。	
			(外部評価) 年2回、法人として地域住民等を対象に熱中症や転倒予防などをテーマとした「地域フォーラム」を開催しており、地域に情報を発信して参加者と交流をしている。事業所の開設時から、町内会など地域との連携を深めており、子供獅子舞の訪問があったり、地域の運動会に参加したり、事業所のもちつきに参加協力を得るなど、相互の協力関係を築いている。近隣のお店には日常的に出かけ、利用者とも馴染みの関係である。また、事業所の敷地内にある事務所を地域のボランティア団体（ナルク松山）に無償で貸し出し、運営推進会議への参加や琴などのボランティアを紹介してもらっている。民生委員も近隣に住んでおり、協力的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的な地域フォーラムを開催し、認知症に対する対応や支援について共に学べる場を提供しており、その際に意見や問い合わせなどを通じて事業所として役立てようと努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1度定期的に運営推進会議が開催できていることで、地域の民生委員さんや役員さんと率直な意見がもらえるようになってきている。その際の意見を取り入れてサービスの向上につなげる努力をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、社協職員、地域包括支援センター職員、市担当者、他施設の職員等の参加を得て開催している。テーマを決めて会議を開催しており、参加者と一緒に避難訓練などを実施する工夫をしている。会議を通して、災害など何かあった時には、地域住民と相互に助け合う確認を行うなど、有意義な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加や地域フォーラムの内容に応じて資料や情報を提供してもらい意見交換を行うなど、積極的に取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告を行うほか、食中毒の予防などのアドバイスをもらうなど、良好な関係を築いている。年2回実施している「地域フォーラム」に参加してくれる場合もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的な勉強会で、職員全員が正しく学び、理解を深める機会を作っている。ベット柵の使用については、家族と充分に話し合い、同意をいただいた上で、ベットを使用する際には、転落、転倒予防のため使用している。	
			(外部評価) 法人として、身体拘束をしない方針としており、職員は勉強会に参加するなど理解して、ケアを実践している。夜間にベッドから転落の危険性のある利用者には、安全面を考え、家族に説明し同意を得て、ベッド柵を使用している。さらに、ベッド柵を越える恐れのある場合は、職員が音などにも気をつけて見守りをして対応している。玄関の施錠はせず、内扉にセンサーを設置している。帰宅願望や徘徊のある利用者には、職員が見守りを行いながら一緒に施設内を散歩するなど、遠くても駐車場くらいで利用者が納得し、帰って来てくれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的な勉強会にて、正しく学べる機会を得ており、身体だけでなく、言葉による虐待を含め、職員間で、お互いがはっきり注意し合い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し学べる機会を作っている。また、研修会に参加した職員が講師となり、職員全員が理解し、意思統一が図れるよう勉強会を行っている。必要と思われる家族には、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度、必ず十分な説明し、理解と納得を得て、サインをいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との連絡ノートを作り取り組んでいる。また、遠距離の家族においては、定期報告としてFAXや電話連絡することで、意見や要望を言いだしやすい関係を築き、早期対応、改善に努めている。 (外部評価) 家族との連絡ノートを使用していたが、家族からの書き込みも少なく、家族から「文書では書きづらい」という意見もあり、訪問時などに職員から話しかけ、意見や要望を聞くよう努めている。家族から、事業所への要望や改善点など言いたいことは伝えるほかに、事業所の良い取組みも言ってもらいなど、話しやすい関係づくりをしている。利用者には、日々の生活の中で、「魚が食べたい。〇〇へ行きたい」などの要望が聞かれ、関連の話をしながら意見を聞き反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のモニタリングやケアプランの見直しにおいてのスタッフ会議や勉強会の時に話合える時間を作っている。また、その時々での対応、改善に努めている。 (外部評価) 職員はスタッフ会議などで、意見や要望を伝えることができる。管理者は職員から、利用者が話をしてくれない場合やどう返事をしたら良いか悩む場合など、接し方などの相談がある。管理者は職員に指導するばかりではなく、職員が話しやすく意見を出しやすい環境づくりをしている。出された意見は、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人一人が自立し、はっきり意見が言えるように日々指導している。また、管理者、ユニット長からの報告にて、すぐに実情確認し、対応している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月の法人内での勉強会では、現場での対応に苦慮していることについてのワンポイントレッスンもあり、即実践に役立てる事ができている。また、法人外の研修に参した職員は、研修内容を発表し、全職員が学べる体制にある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会に加入しているだけでなく、石井地区のグループホーム連絡協議会にも加入し、研修会だけでなく、意見や情報交換したり、お互いの行事に参加できる機会がある。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 必ず事前に見学をしていただいたり、こちらが訪問したりして本人と話ができる機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前見学時に、本人と家族の意向や要望を聞き、暫定でのケアプランを作成、サービス開始前には、説明し確認した上で同意をいただけるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前情報を元にアセスメントを作成、スタッフ会議をし、必要に応じては、看護師、医師の意見やアドバイスを受けて、ケアプランを作成。本人、家族にケアプラン内容を説明、了解いただけるような対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんには、職員に依存してしまわないように、残存機能を見極めたうえで出来ることは、自分でしていただいている。同じ時間を共有する中で助け合う協力者としての信頼関係を築けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 全入居さんの家族に対して、毎月必ず定期的に状態報告をしている。入居者さんと家族が、離れて暮らしても疎遠にならないように、お互いの思いを職員が伝えていけるよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話をしたり、手紙を書いたりして、関係が維持できるように支援している。また、贈り物が届いた際には、職員が届いたこととお知らせするとともに、気軽に訪ねていただけるように声掛けしている。 (外部評価) 近隣の利用者が多く、民生委員はじめ地域住民とも昔から顔なじみで、知人や友人の訪問も多い。以前、地域で獅子舞の指導をしていた家族の利用者もあり、子供たちが訪問してくれることもある。近隣のお店には日常的に出かけており、馴染みの関係ができ、店員と会話を楽しんでいる。また、利用者の希望により、お墓参りや自宅など馴染みの場所にも出かけられるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者さんの個性を把握し、できる事、出来ない事をお互いに助け合えるようなお手伝いを声掛けしている。また、会話には、職員が加わることで、コミュニケーションがとれるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用期間内にしっかりと信頼関係を築いておくことで、終了後もホームに立ち寄ってもらったり、行事の案内をする機会に、気軽に相談してもらえるような関係の維持に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者さんが個々に安心して落ち着いた生活ができるように配慮している。長年生活している入居者さんの自己優先的な主張や新しい入居者さんの遠慮な思いに対して、家族さんの理解や協力を得ながら、お互いにストレスとならないような対応に努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で、利用者の思いや意向を聞き把握している。入居当初は、団体生活に慣れない利用者もあり、利用者同士の行き違いもあるが、職員が馴染めるように間に入り、その都度、臨機応変に対応している。利用者同士の関係も良くなるように利用者のレベルに合わせた計算などの別々の問題を作るなど、学習療法も取り入れている。幻視や幻聴があり思いの把握が難しい利用者には、家族から情報を得て利用者本位のサービスが提供できるよう検討しているが、難しい場合が多い。レクリエーションは得意な分野を活かせるように、折り紙や調理の下ごしらえ、鈴虫の世話などをお願いし、手伝ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートにたよるだけでなく、本人、家族の何気ない日常会話の中からも記録に記載し把握できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は交代勤務であるため、正確な記録や確実な申し送りにて情報を共有しており、不明な点は、対応した職員にその都度確認している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月の家族への定期状態報告時に、必ず家族の意向・要望を確認している。健康状態の変化や問題が発生した際には、詳細を家族に報告するとともに、スタッフ会議を行い、必要に応じては、医師、看護師に相談し、ケアプランを変更し、家族に説明し同意をいただいている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、3か月に1回見直しをしている。見直しを行う場合は、母体診療所や他の事業所のスタッフと話し合い、違う視点で見たり、目標も変えたりしている。また、利用者の状態の変化のある場合は、その都度話し合い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は大事な仕事である。記録から細かな情報を得る事ができるため、行動・発言などを正確に記載するよう努めている。更に、申し送りにて、情報を確認、共有することで、サービスを一定化させることに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その人のその時々に合わせて、よりよいサービスが提供できるよう、スタッフ間や家族と話し合い、併設されているデイケア、小規模多機能や医療法人のリハビリなどが活用できるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所のパン屋さん、和菓子屋さんを利用することで顔なじみとなり、散歩中にも声かけてもらっている。また、近くの保育園児との交流や、毎年地域のお祭りのお神輿や子供獅子舞が入ることを楽しみにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医師には、毎日細部にわたり状態を報告してい る。緊急時には、職員が同行し、適切な医療が受けられる ような体制にある。	
			(外部評価) 母体診療所を全員の利用者がかかりつけ医としている。事業 所では利用者の健康状態などを毎日母体診療所の医師や看護 師に報告し健康管理をしており、医療との連携が取れ利用者 や家族は安心して事業所を利用することができる。利用者の 病状や疾患の対応のことなど、職員は月1回実施する勉強会 で学び、家族にも伝えている。日々の状態に変化があれば、 前もって医師から家族に報告し、安心して専門医などの受診 もすることができる。緊急時には家族に連絡し、家族が病院 などへ同行できない場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日、定時報告し、状態の把握に努めてもらっている。緊急 時には、即対応してもらえるよう24時間体制での支援もあ る。また、週1回の訪問看護支援もあり、入居者さん、家族 ともに安心していただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、必ず同行し、入院先の病院関係者との情報交換 の場をもっている。入院後も交代で訪ねて病院関係者や家族 から情報を得て、早期退院につなげるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に、家族の意向を確認、書類を交わすだけでなく、家 族とともに取り組むチームケアである事も理解いただき協力 を得て、取り組む体制が整っている。また、以前に経験した ターミナルケアを生かし、職員間でも意思確認するととも に、勉強会のテーマにして法人全体でも取り組んでいる。	
			(外部評価) 「看とりに関する指針」を作成し、対応できる内容を入居時 に利用者や家族に説明し確認している。肺炎など状態の変化 に応じて、治療方針などを家族に説明して話し合い、再度、 希望や意向を確認している。夜間の対応は職員も不安はある が、1階と2階で2名の職員がおり、緊急時には母体診療所 と連携が取れており、職員にも安心感がある。また、年1回 看取りをテーマにした勉強会も実施している。週1回の訪問 看護で、職員は対応の確認をするなど、不安解消にも繋がっ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に医師、看護師から直接指導を受けられる体制にあり、勉強会やミーティングも行っている。また、消防署立会いの避難訓練の際にも、指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 全てにおいて、対応マニュアルができています。地域に呼びかけ参加協力のうえ、消防署立会いのもと、定期的に避難訓練を行うだけでなく、自主的にも行っている。また、職員が慌てることのないように、法人内・事業所内の緊急連絡網を大きく表示している。 (外部評価) 事業所は住宅街に位置するため、避難訓練には地域住民も一緒に参加してもらい、建物内の状況も把握してもらっている。訓練では夜間を想定して実際に利用者が外の非常階段を使用し、避難をしている。消防署や市担当者から、「リーダーのいない場合にはどのように避難するのか」という指摘があり、今後はリーダーの不在を想定して、指示のない場合にも対応できる訓練を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室で過ごしている方の訪室は、必ずノックや声掛けをし、返事があってから、室内に入るようにしている。入居者さんと視線を合わせての声掛け、言葉遣いにも配慮、掃除や片づけなどもできるだけ一緒に行っている。 (外部評価) 居室への入室時にはノックや声かけを必ずするよう徹底している。夜間に居室のドアを閉めると不安のある利用者には、入口にのれんを掛け、居室内が見えないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の何気ない事から、本人の言葉に出来ない思いに気付く、対応できるように入居者さんの表情も観察項目にあげている。また、遠慮しないで言い出せる雰囲気づくりにも配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合や業務が優先になりがちな事を常に意識し、職員同士で注意し合っている。その都度入居者さんの希望を優先した対応ができるよう職員が余裕をもつよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容室に出かけている。外出時には、洋服を選ぶ事から楽しめるよう声掛けしている。また、食べこぼしなどで汚れたら、すぐに着替えるよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人ができるお手伝いをしていただき、一緒に作る楽しみを支援している。季節、行事に合わせたメニューやお誕生日には本人の好物を取り入れるなど、毎日のメニューにも変化をつけて、食事が楽しみになるように配慮。また食事形態を個々のレベルに合わせて、お粥やミキサー食、とろみを付けたりしている。 (外部評価) 昼食と夕食は専属の調理員が調理をし、朝食は夜勤の職員が調理をしている。利用者の希望する食事の時間やペースに合わせて、食事ができるよう対応している。食事の時間帯が分かるよう、音楽をかけてゆっくり食べてもらえるようにしている。利用者とレクリエーションをしながらメニューを考えたり、下ごしらえなどを手伝ってもらったりしている。利用者と職員が同じテーブル囲み、会話を楽しみながら同じ食事をしている。また、そうめん流しやバーベキューを行ったり、家族と一緒にホテルにランチに出かけるなど、利用者が食事を楽しめる工夫をしている。週に1回昼食はパン食にしており、利用者と一緒に近所のパン屋に買い物に行き、好きな物を選んでいいる。食後には歯磨きなどの口腔ケアにも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランス、食べる量をもとに高齢者に合わせたメニューを作成している。水分摂取量は、個々の好みの物を取り入れてすすめるなど本人の負担とならないような工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアを行い確認している。自分のできる方は、歯みがきの仕上げすることで、口腔内のチェックをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを元に、その人に合わせてのトイレ誘導・声かけを行っている。便失禁はほとんどなく、トイレでの排便が可能。尿失禁においては、職員同士で声掛け、パットの使用量を減らすよう努めている。 (外部評価) 利用者にトイレの場所が分かりやすいよう、大きな表示をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、職員間で共有している。利用者の状態に合わせて、夜間にポータブルトイレを使用したり、オムツやパットを使用している利用者もいる。なるべく声かけなどをして誘導し、トイレで排泄してもらえよう努めてることにより、パットの使用量を減らすことや尿路感染の予防に繋がっている。また、便秘対策としてヨーグルトなどを食べてもらい、自然な排便ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排便状態や一日の活動量を把握し、ちょっとした運動(体操・歩行等)や出来るだけ飲食物にて調整している。(水分量、乳製品、バナナ等)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿うよう配慮するが、入浴時間の制限はあるものの毎日の入浴が可能な体制にある。 (外部評価) 利用者は1日おきに入浴することができる。利用者の希望に応じて、一番風呂などの順や毎日入浴することにも対応している。入浴を嫌がる利用者には、タイミングや時間を代えて声かけをしたり、家族の面会時に声をかけてもらい上手に浴室に誘導するなどの工夫をしている。湯船に入った気分になれる座シャワーも設置しているが、介護度の高い利用者も気持ち良く浴槽に浸かれるよう、2人体制での介助もしている。アロマオイルや青りんごの匂いのする入浴剤などを入れ、利用者が楽しんで入浴ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時々状態や体調に合わせての休息がとれるように声かけや支援をしている。また、安眠できるよう環境整備にも配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の定期薬には、日付、名前、服薬時を記入、必ず服薬確認を行っている。また、かかりつけ医師には、毎日入居者さんの体調を報告、細かな指示のもと、異変の早期発見、早期対応できるよう様子観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の役割分担ができている。日々の生活の中に、お誕生会や音楽療法、学習療法を取り入れたり、恒例行事として、納涼祭りや地方祭、運動会など参加することが楽しみとなる機会を作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のパン屋さん、和菓子屋さん、ケーキ屋さんを利用することで、顔なじみとなってコミュニケーションがとれている。公園や近所を散歩することで子供達とのふれあいを楽しむ機会も作っている。また、家族の協力にて、自宅に帰る事やドライブや外食を楽しんでいる。 (外部評価) 日頃から近くの公園やスーパーに散歩がてら出かけ、食品を買ったり、花の鑑賞などをしたりしている。近隣のパン屋やケーキ屋の店員とは顔馴染みの関係にあり、買い物や会話を楽しんでいる。利用者は週1～2回母体診療所にパワーリハビリに出かけることにより、転倒などの事故の減少に繋がっている。また、家族と外食や買い物に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 物取られ妄想や、大事にしまい込みすぎてわからなくなるなどトラブルの原因になりかねないことを家族、本人に説明、了解を得た上で預かることにしている。外出時には、本人が自分で財布から支払えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話のかけ方が分からない方には、職員がかけて話ができるようにしたり、手紙を書く方にはアドバイスしたり、本人のしたいことができるように支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの壁画は季節に合わせて張り替えている。居室入口には、自分の部屋とわかるよう写真を飾っている。また風通りを良くするため、暖簾をつるしたり、ベットの位置を変えるなどの工夫もしている。廊下にはイベントの写真を飾り利用者さんの楽しみとしている。 (外部評価) リビングダイニングには、ソファやテーブル、いすが置かれ、利用者は思い思いの場所でゆっくりくつろぐことができる。リビングと居室等をつなぐ廊下には手すりが設置され、座れるスペースもあり、馴染みの利用者と一緒に会話を楽しんでいる。家族とホテルで食事会をした写真や健康10訓などを見やすい位置に貼っている。また、リビングの出窓には花や人形が飾ってあるほか、この時期は利用者と一緒に飼育している鈴虫の鳴き声も聞こえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) お互いに定位置があるが、その時々に合わせて工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 以前から使用していた物を持ち込んでいただいている。本人の希望にて、鉢植えや観葉植物が置かれたり、ぬいぐるみや写真を飾っている。定期的なシーツ交換、布団干しにて、心地よく過ごせる支援をしている。 (外部評価) 居室はベッド、洗面台、押し入れ、エアコンが備え付けられている。居室には使い慣れた物や馴染みのある物を持ち込むことができ、テレビやぬいぐるみ、鏡台などを持ち込み、利用者に合わせた空間づくりをしている。入口には家の形をしたコルクで作った表札や写真を貼り、利用者に居室が分かりやすいよう工夫をしている。季節により、陽の当たり方や風の流れが変わるため、ベッドの配置などを変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者さんが理解できるように大きく表示したり、わかりやすい場所に置くなど工夫して、環境整備に努めている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102948
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきの里
所在地	松山市古川北1丁目25-24
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護と医療の連携ができており、入居者の健康状態を毎日詳細に報告できることで早期対応や予防が可能。元気で安心した生活が続けられるように支援しています。恒例行事においては、地域の方にも参加して頂けるようにチラシを配布したり、地域の子供達による獅子舞に来てもらうなど、家族と共に楽しめる機会を作っています。
また、年2回地域フォーラムを開催して、介護予防を目的とした体力測定を行ったり、熱中症の予防対策、災害時に必要な防災グッズや非常食についての情報を届けるなど地域の拠点となる努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには市場を思わせるようなスーパー、コンビニや飲食店、小学校などがあり、生活をする上では最適な立地である。事業所の敷地内にある事務所を地域のボランティア団体(ナルク松山)に無償で貸し出し、運営推進会議への参加や琴などのボランティアを紹介してもらい訪問があるなど、相互の協力関係を築いている。年2回、法人として地域住民等を対象に熱中症や転倒予防などをテーマとした「地域フォーラム」を開催しており、参加者と交流を深めている。事業所では、利用者が「立つ・座る・歩く」ことを重要と考え、利用者は週1~2回母体診療所にパワーリハビリに出かけ、利用者の身体機能の維持や向上に努めている。職員は法人全体の会議や勉強会に自主的に参加しサービスの向上に努めている。また、母体の医療法人は、「介護と医療の連携」をモットーとしており、事業所では利用者の健康状態などを毎日母体診療所の医師や看護師に報告し健康管理をしており、利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。管理者や職員は、利用者の住み慣れた地域で一人ひとりの個性を生かし、安心してお互い笑って日々が暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 2F

記入者(管理者)

氏 名 岡 美子

評価完了日 平成 26 年 8 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 介護職員が医療の知識を身につけることにより、さらに医療と介護の連携がスムーズになるため、職員全員がスキルアップする努力をしています。	
			(外部評価) 法人の運営理念のほか、「一人一人の個性を生かしお互いに笑って日々が暮らせるような安全で快適なグループホーム作りを目指します。」という事業所独自の理念を作成している。理念を基にして、「医療と介護の連携」をモットーとし、利用者が住み慣れた場所で暮らし続けられるよう、管理者や職員は支援している。また、職員の「つばきの里10か条」を作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所のお店で買い物したり、恒例行事には、地域の方に参加して頂けるようにチラシを配布したり、地方祭りには、地域の子供達の獅子舞を楽しむことができます。	
			(外部評価) 年2回、法人として地域住民等を対象に熱中症や転倒予防などをテーマとした「地域フォーラム」を開催しており、地域に情報を発信して参加者と交流をしている。事業所の開設時から、町内会など地域との連携を深めており、子供獅子舞の訪問があったり、地域の運動会に参加したり、事業所のもちつきに参加協力を得るなど、相互の協力関係を築いている。近隣のお店には日常的に出かけ、利用者とも馴染みの関係である。また、事業所の敷地内にある事務所を地域のボランティア団体（ナルク松山）に無償で貸し出し、運営推進会議への参加や琴などのボランティアを紹介してもらっている。民生委員も近隣に住んでおり、協力的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 年2回地域フォーラムを開催した際には、認知症状による徘徊や対応についてワンポイントレッスンやアドバイスできる時間をとっています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的な運営推進会議の開催時、市や他の事業所、近隣の方 や地域の民生員さんなど様々な立場での意見を聞く事ができ るため、サービスの向上につなげる努力をしています。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、社協職員、地域包 括支援センター職員、市担当者、他施設の職員等の参加を得 て開催している。テーマを決めて会議を開催しており、参加 者と一緒に避難訓練などを実施する工夫をしている。会議を 通して、災害など何かあった時には、地域住民と相互に助け 合う確認を行うなど、有意義な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議時に、意見交換や情報交換ができています。ま た必要と思われる時は、こちらから出向いて相談し、アドバ イスを頂いています。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告を行 うほか、食中毒の予防などのアドバイスをもらうなど、良好 な関係を築いている。年2回実施している「地域フォーラ ム」に参加してくれる場合もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に勉強会を行い身体拘束を正しく学び理解し、実践し ている。ベッド柵については、家族とよく話し合った上で、 転落、転倒予防のため夜間のみ使用している。また徘徊や帰 宅願望の強い方への対応は、手を放しても目を離さないケア に取り組んでいます。	
			(外部評価) 法人として、身体拘束をしない方針としており、職員は勉強 会に参加するなど理解して、ケアを実践している。夜間に ベッドから転落の危険性のある利用者には、安全面を考え、 家族に説明し同意を得て、ベッド柵を使用している。さら に、ベッド柵を越える恐れのある場合は、職員が音などにも 気をつけて見守りをして対応している。玄関の施錠はせず、 内扉にセンサーを設置している。帰宅願望や徘徊のある利用 者には、職員が見守りを行いながら一緒に施設内を散歩する など、遠くても駐車場くらいで利用者が納得し、帰って来て くれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的な勉強会で学ぶ機会を作り、身体だけでなく、言葉での虐待についても、常に意識し、職員間でお互いにはっきり注意し、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の勉強会に参加、学べる機会をもっています。必要と思われる家族には、詳しく説明できるように事業所内でも学習しています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 必ず十分な説明をしています。そのうえで、理解、納得を得てから、サインを頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 以前は家族ノートを作り取り組んでいましたが、家族からの書き込みがほとんどなく反映できないため、ケアプラン作成時と説明時に必ず機会を設け、コミュニケーションをとっています。	
			(外部評価) 家族との連絡ノートを使用していたが、家族からの書き込みも少なく、家族から「文書では書きづらい」という意見もあり、訪問時などに職員から話しかけ、意見や要望を聞くよう努めている。家族から、事業所への要望や改善点など言いたいことは伝えるほかに、事業所の良い取組みも言ってもらなど、話しやすい関係づくりをしている。利用者には、日々の生活の中で、「魚が食べたい。〇〇へ行きたい」などの要望が聞かれ、関連の話をしながら意見を聞き反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的なミーティング時やスタッフ会議時に、十分に話合っ て改善に努めています。 (外部評価) 職員はスタッフ会議などで、意見や要望を伝えることができる。管理者は職員から、利用者が話をしてくれない場合やど う返事をしたら良いか悩む場合など、接し方などの相談があ る。管理者は職員に指導するばかりではなく、職員が話しや すく意見を出しやすい環境づくりをしている。出された意見 は、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 管理者、ユニット長からの報告にて実情を確認し、即対応し ています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回、即実践に役立つ勉強会を行っています。また、研修 会の内容に応じて各職員が参加できるように配慮していま す。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県の地域密着型サービス協会に加入しているとともに、 石井、久谷地区での協会に加入、研修会だけでなく、意見、 情報交換できる場をもち、質の向上に取り組んでいます。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 事前見学して頂き、話ができる機会を作っています。見学に 来られない方には、こちらから面会に行き、本人の思いが反 映できるように努力しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前見学時や面会時に、本人や家族の意見、要望を聞き、暫定ケアプランを作成。家族に説明、同意を得ることで、サービス開始時には、安心して利用していただけるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前情報をもとに、スタッフ会議にて話し合い作成したケアプランを説明。本人、家族にサービス内容を確認していただけるような対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんには、残存能力を生かした生活リハビリにて、自信と職員に依存しない自立した気持ちを持ち続けてもらえるように支援しています。また、助け合うことで信頼関係が築けるように努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と疎遠にならないように、FAXや電話でその都度状態報告するとともに、離れて暮らす家族の思いを本人に伝えていくように努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 贈り物が届いた際には、必ず職員が届いた事をお知らせすると同時に、本人と話ができるように配慮しています。また、電話が自由に使えるように支援しています。 (外部評価) 近隣の利用者が多く、民生委員はじめ地域住民とも昔から顔なじみで、知人や友人の訪問も多い。以前、地域で獅子舞の指導をしていた家族の利用者もあり、子供たちが訪問してくれることもある。近隣のお店には日常的に出かけており、馴染みの関係ができ、店員と会話を楽しんでいる。また、利用者の希望により、お墓参りや自宅など馴染みの場所にも出かけられるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者さんの個性を把握して、職員が会話に加わることでコミュニケーションがとれるように配慮しています。また、一人ひとりの得意分野を引き出し、お互いに助け合える環境作りに努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用期間内にしっかりと信頼関係を築いておくことで、終了後も地域フォーラムや行事参加の案内を続け、関係がとぎれないように努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 認知症の進行により言葉が出なくなった方の思いが表情から読み取れるように努めています。また、自己主張できる方や、遠慮して言い出せない方には、家族の協力を得ながら、お互いがストレスをかかえないようにその時々で柔軟な対応をしています。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者の思いや意向を聞き把握している。入居当初は、団体生活に慣れない利用者もあり、利用者同士の行き違いもあるが、職員が馴染めるように間に入り、その都度、臨機応変に対応している。利用者同士の関係も良くなるように利用者のレベルに合わせた計算などの別々の問題を作るなど、学習療法も取り入れている。幻視や幻聴があり思いの把握が難しい利用者には、家族から情報を得て利用者本位のサービスが提供できるよう検討しているが、難しい場合が多い。レクリエーションは得意な分野を活かせるように、折り紙や調理の下ごしらえ、鈴虫の世話などをお願いし、手伝ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートを参考にしたり、みんなで昔話や自慢話ができる機会を作り、把握できるように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケアを一定化させるために、正確な記録、確実な申し送りにて、情報を共有し、不穏状態の改善に努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月モニタリングをしている。健康状態の変化や問題がでてきた場合、改善が必要な場合には、必ずスタッフ会議を行っている。家族には、常に詳細を報告し、家族の意見、意向を取り入れ、必要に応じては、医師、看護師に相談し、介護計画を作成しています。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、3か月に1回見直しをしている。見直しを行う場合は、母体診療所や他の事業所のスタッフと話し合い、違う視点で見たり、目標も変えたりしている。また、利用者の状態の変化のある場合は、その都度話し合い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は大事な仕事の一つ、記録から情報の共有ができるため、確実な記載に努めている。また、申し送りでケアの確認、サービスを一定化できるように努めています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設されているデイケア、小規模多機能の活用、サービス付き高齢者住宅も含めて、スタッフ間や家族と話し合い、その時々に合わせて、よりよいサービスが提供できるように配慮しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所のパン屋さん、和菓子屋さんを利用することで、顔なじみとなっている。また、毎年、お神輿や子供の獅子舞が来ると地域のお祭りが楽しみとなっています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医師には、毎日入居者の健康状態を報告していま す。緊急時には、かかりつけ医師の指示にて、職員が同行 し、適切な医療が受けられる体制ができています。	
			(外部評価) 母体診療所を全員の利用者がかかりつけ医としている。事業 所では利用者の健康状態などを毎日母体診療所の医師や看護 師に報告し健康管理をしており、医療との連携が取れ利用者 や家族は安心して事業所を利用することができる。利用者の 病状や疾患の対応のことなど、職員は月1回実施する勉強会 で学び、家族にも伝えている。日々の状態に変化があれば、 前もって医師から家族に報告し、安心して専門医などの受診 もすることができる。緊急時には家族に連絡し、家族が病院 などへ同行できない場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日、定時連絡し報告している。緊急時には、即対応しても らえる24時間体制での支援あり。また、週1回の訪問看護 支援体制もできています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、職員が必ず同行し、受け入れ先の病院への申し 送りをしています。入院中は、職員が顔をみせることで本人 や家族を支えています。また、家族から情報を得たり、必要 時には家族にかわって職員が対応するなど早期退院できるよ うに支援しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアについて経験あり。入所時に家族の意向を確 認、意思疎通を図っている。職員だけでなく、家族とのチー ムワークケアである事も理解いただき、取り組む体制が整っ ている。また職員間でも意思確認し、勉強会のテーマにも取 り上げて、法人全体でも取り組んでいます。	
			(外部評価) 「看とりに関する指針」を作成し、対応できる内容を入居時 に利用者や家族に説明し確認している。肺炎など状態の変化 に応じて、治療方針などを家族に説明して話し合い、再度、 希望や意向を確認している。夜間の対応は職員も不安はある が、1階と2階で2名の職員がおり、緊急時には母体診療所 と連携が取れており、職員にも安心感がある。また、年1回 看取りをテーマにした勉強会も実施している。週1回の訪問 看護で、職員は対応の確認をするなど、不安解消にも繋がっ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に医師、看護師に直接指導を受けています。また随時指導が受けられる体制にあります。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) すべてにおいて対応マニュアルがある。慌てずに対応できるように緊急連絡網を大きく表示している。また、地域に呼びかけ参加協力のうへ、消防署立会いのもと、火災や地震を想定した避難訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 事業所は住宅街に位置するため、避難訓練には地域住民も一緒に参加してもらい、建物内の状況も把握してもらっている。訓練では夜間を想定して実際に利用者が外の非常階段を使用し、避難をしている。消防署や市担当者から、「リーダーのいない場合にはどのように避難するのか」という指摘があり、今後はリーダーの不在を想定して、指示のない場合にも対応できる訓練を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 各居室に入る際には、必ず声掛け、ノックをしてからとしています。入居者さんのレベルに合わせて、掃除や片づけを一緒におこないます。その際には、視線を合わせて声かけをし、言葉にも配慮しています。 (外部評価) 居室への入室時にはノックや声かけを必ずするよう徹底している。夜間に居室のドアを閉めると不安のある利用者には、入口にのれんを掛け、居室内が見えないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自己決定できる雰囲気づくりをしたり、職員が入居者さんの思いを聞き出せる余裕を持てるように指導しています。また、言葉に表せない方の思いに気づき、対応していけるように努力しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先しがちであるが、ケアプラン見直し時やモニタリングの際に、職員同士で再確認し、お互いが注意し合い、入居者さん主体での生活が送れるように努めています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容室に外出していますが、不穏症状にて外出が困難な方は、職員が散髪することで対応しています。毎日の洋服の組み合わせや、普段着と外出時の違いなども配慮できています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 残存能力に合わせたお手伝いをさせていただいて、一緒に作る楽しみを支援している。また、個々の食事形態に合わせて、お粥、刻み食、ミキサー食を提供している。季節メニューやお誕生日メニュー、行事メニューなどを取り入れて、毎日の食事に変化をつけながら、食事が楽しみになるような工夫をしている。 (外部評価) 昼食と夕食は専属の調理員が調理をし、朝食は夜勤の職員が調理をしている。利用者の希望する食事の時間やペースに合わせて、食事ができるよう対応している。食事の時間帯が分かるよう、音楽をかけてゆっくり食べてもらえるようにしている。利用者とレクリエーションをしながらメニューを考えたり、下ごしらえなどを手伝ってもらったりしている。利用者と職員が同じテーブル囲み、会話を楽しみながら同じ食事をしている。また、そうめん流しやバーベキューを行ったり、家族と一緒にホテルにランチに出かけるなど、利用者が食事を楽しめる工夫をしている。週に1回昼食はパン食にしており、利用者と一緒に近所のパン屋に買い物に行き、好きな物を選んでいる。食後には歯磨きなどの口腔ケアにも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) メニューは、入居者さんの意見も取り入れた内容で、栄養のバランスや食べる量を考慮し作成している。水分摂取量をチェックし、本人の負担とならない方法を取り入れての支援をしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 24時間シートの中にチェック表を作り、サインしています。毎食後、必ず口腔ケアを行って、義歯の有無、自分の歯の有無も確認しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンが把握できており、時間やその人の行動から予測して、トイレ誘導し、尿漏れやパットの使用量を減らす努力をしています。 (外部評価) 利用者にトイレの場所が分かりやすいよう、大きな表示をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、職員間で共有している。利用者の状態に合わせて、夜間にポータブルトイレを使用したり、オムツやパットを使用している利用者もいる。なるべく声かけなどをして誘導し、トイレで排泄してもらえよう努めてることにより、パットの使用量を減らすことや尿路感染の予防に繋がっている。また、便秘対策としてヨーグルトなどを食べてもらい、自然な排便ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状態に合わせて、一日の活動量や飲食物にて調整しています。(水分量、乳製品、バナナ等)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴ができる体制にあります。入浴拒否される方には、時間やタイミングを見計らっての声かけを行っています。 (外部評価) 利用者は1日おきに入浴することができる。利用者の希望に応じて、一番風呂などの順や毎日入浴することにも対応している。入浴を嫌がる利用者には、タイミングや時間を代えて声かけをしたり、家族の面会時に声をかけてもらい上手に浴室に誘導するなどの工夫をしている。湯船に入った気分になれる座シャワーも設置しているが、介護度の高い利用者も気持ち良く浴槽に浸かれるよう、2人体制での介助もしている。アロマオイルや青りんごの匂いのする入浴剤などを入れ、利用者が楽しんで入浴ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日、その時、個々に合わせての休息时间、就寝時間に配慮しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日の定期薬には、日付、名前を記入し、しっかりとした服薬確認ができています。また、毎日入居者の体調について医師に報告、細かな指示のもと、様子観察を行い早期発見、早期対応できるように支援しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の役割分担ができています。誕生会、音楽療法、学習療法のほかに、おやつ作り、調理もできるよう支援しています。また、恒例の運動会、家族と共に出かける食事会など楽しみとなる機会も作っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くのパン屋、和菓子屋を利用し、顔なじみとなって会話ができています。公園に散歩に出かけることで子供達とのふれあいを楽しんでいます。また家族の協力を得られる方は、食事や買い物、お墓参りに出かけています。 (外部評価) 日頃から近くの公園やスーパーに散歩がてら出かけ、食品を買ったり、花の鑑賞などをしたりしている。近隣のパン屋やケーキ屋の店員とは顔馴染みの関係にあり、買い物や会話を楽しんでいる。利用者は週1～2回母体診療所にパワーリハビリに出かけることにより、転倒などの事故の減少に繋がっている。また、家族と外食や買い物に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 物取られ妄想や大事にしまい込みすぎてわからなくなるなどのトラブルがあることを家族、本人に説明、了解を得た上で預かる事にしているが、出かけた際には、自分で財布から支払うなどの支援をしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をしたいが、かけ方がわからない方には、職員がかけて話ができるようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングは、季節に合わせて壁画を張り替えている。居室の入り口には、本人の部屋とわかるように写真を展示、工夫している。また風通しを考慮し、のれんをかけたり、季節に応じてペットの位置を変えるなどの工夫をしています。 (外部評価) リビングダイニングには、ソファやテーブル、いすが置かれ、利用者は思い思いの場所でゆっくりくつろぐことができる。リビングと居室等をつなぐ廊下には手すりが設置され、座れるスペースもあり、馴染みの利用者と一緒に会話を楽しんでいる。家族とホテルで食事会をした写真や健康10訓などを見やすい位置に貼っている。また、リビングの出窓には花や人形が飾ってあるほか、この時期は利用者と一緒に飼育している鈴虫の鳴き声も聞こえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) お互いに定位置があるが、その時々にて柔軟な対応をしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 以前から使用していた物を持ち込んでいただいている。家族が鉢植えや観葉植物を置かれたり、定期的なシーツの洗濯や布団を干し、気持ちよく過ごせる工夫をしています。 (外部評価) 居室はベッド、洗面台、押し入れ、エアコンが備え付けられている。居室には使い慣れた物や馴染みのある物を持ち込むことができ、テレビやぬいぐるみ、鏡台などを持ち込み、利用者に合わせた空間づくりをしている。入口には家の形をしたコルクで作った表札や写真を貼り、利用者に居室が分かりやすいよう工夫をしている。季節により、陽の当たり方や風の流れが変わるため、ベッドの配置などを変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者が理解できるように、大きく表示したり、わかりやすい場所に置いたり、環境整備をすることで、転倒や転落の事故を予防し、安全な生活ができるように支援しています。	